

D 157 衣服寸法の基準設定を目的とした6~23才女子の身体計測結果について

—日本と台湾との比較研究—

屏東農專家政 邱魏津

目的 台湾の女子体型に適合する衣服寸法を設定する目的として、6~23才についての身体計測を行ない、その結果を日本の人体計測資料と比べ、両方の差を比較検討した。

方法 計測項目は衣服寸法に関連のある身長・胸圍・胴圍・腰圍・体重・背丈・背肩幅・頸付根圍・総丈・頭圍・大腿圍・袖丈・腕付根圍・手首圍・ゆき・下腿最大圍・足長・足幅・後胸高・前胸高・右前上腸骨棘高・w.L.→座面・下部胸圍・上腕最大圍・掌圍の25項目である。

資料は在籍する小・中・高校生と短大女子学生6219人である、日本の資料は1978年~1981年日本人の体格調査報告書による計測値である。

計測方法はMartinの方法及び柳沢澄子氏の計測方法により行ない、山越製Martin人体測定器を使用した。

結果 1)台湾の場合の身長では、7才以後直ちに急上昇をはじめ、11~12才間で年間増加量はピーク(6.02cm)となる、ピークを示したあと減少するので、16才以後構ばいのカーブに移る、胸圍では、11~12才間の年間増加量はピーク(4.61cm)となるが、日本の場合の身長では、11~12才間で年間増加量はピーク(7.0cm)となる、ピークを示したあと急速に減少するので、14才以後構ばいのカーブに移る、胸圍では、11~12才間の年間増加量はピーク(4.3cm)となることが分った。2)計測値は日本とよく近づいているが、身長の場合では日本より高い、体重は日本より低いである、また胸圍・胴圍・腰圍・大腿圍では日本より低いことが分った。